

## 新入生への祝辞

教育文化学部長・教育学研究科長 佐藤修司

入学おめでとうございます。

新型コロナウイルスの関係で、入学式が中止となり、またガイダンスや授業開始も遅れることになり、残念に思っていることでしょう。通常でも新しい生活には期待や希望とともに不安や心配がつきものであるから、なおさらです。今回の事態はグローバル化の負の側面とともに、地球温暖化による気候変動、少子高齢化と人口減少社会の到来、ICT、AI、IoT時代の到来などとともに、不透明な時代を象徴するものと言えます。教職員もこの未曾有の事態に対処すべく努力を続けていますので、みなさんの協力を切にお願いいたします。

このような時代であるからこそ、みなさんには大学で学ぶことの意義を深く考えてほしいと思います。大学は学問の場です。学んで問うこと、問うて学ぶこと、この繰り返しが学問です。教育も含め、社会には様々な情報があふれていますが、何が真実であるのか、有益な情報であるのかは判別がつかず、逆に嘘や詐欺、誹謗・中傷があふれています。真実を見抜き、進むべき方向を見いだすためには、過去から積み上げられてきた知の体系を身に付けることが必要です。

もちろんその真実も方向も一つとは限りません。すべては疑いうるもので、本物は見つからないかもしれないかもしれません。ルソーが書いた『エミール』の中に、「理性、判断力はゆっくり歩いてくるが、偏見は群れをなして走ってくる」という言葉があります。社会では往々にして理性が、偏見や無知に押し流されることもあります。それでもあきらめずに、多くの先人によってつながれてきた連綿とした知の営為を、みなさんが引き継ぎ、未来に伝えていくことを期待しています。

大学の学びは教師や公務員、企業人などの職業にも結びついています。その職業技能は、批判精神、科学的精神、市民精神（シティズンシップ）と融合することによって自分と社会と未来を拓く揺るぎのないものとなるのです。

学問の営みは決して派手なものではなく、地道で、目立たないものです。あきらめずに一步一步進むことである日、トンネルを抜け出たように視界が開けるのです。未来へのバトンはみなさんの手の中にあります。

令和2年4月吉日

追記) 本学部HPの下記のURLに、学部・研究科通信「みなおと」、教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」を掲載しています。教育文化学部、教育学研究科の様々な活動を紹介していますので、授業開始までの時間にぜひ見てください。

[https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_magazin.html](https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html)

[https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate\\_magazin.html](https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html)